



浅間山

せんげんやま



えがお がっこう
笑顔の学校

令和4年度 No.2
可児市立東可児中学校
令和4年5月2日発行

横断歩道にて

生徒指導主事 梅田 佳宏

白い縞々を跳んで渡る一。

横断歩道を渡るとき、一度はしたことがあるのではないのでしょうか。そういえば、自分も幼いときしていたなあと振り返ります。当時の自分と同じことを、息子がしているのを見て、当時の親の気持ちを自覚しました。

東可児中校区では、横断歩道で車の方がよく止まってくださいます。本当にありがたいことだと常々感じています。「大人が子どもの安全を見守っていてくれる」というメッセージには、安心を感じずにはられません。本当にありがとうございます。

では、生徒たちはどうでしょうか。頭を下げながら横断する生徒がたくさんいます。しかし、お辞儀をしているのかどうかも分からない姿、なかには、止まってくださった人に目もくれず横断する姿を目にするときもあります。ここに、本校の教育目標である、「自律・共生・創造」の力を育んでいく必要性を感じます。

しかし、ある朝、1人の女子生徒の行動が目にとまりました。私は横断歩道を渡る生徒の姿を、車から見ていました。その生徒は、渡りきったときに、くるっと振り返り、運転する人を見て深々とお辞儀をしたのです。顔を上げたときの爽やかな表情は、時間が止まったように、鮮明に自分の中に焼き付けられました。生徒は、頭を上げた後、止まっていた車の運転手が、自校の職員だったことに、初めて気付いたようでした。



この姿を見て、相手意識をもって礼を尽くすこと、その爽やかさを伝えることは大切だと感じます。しかし、それ以上に、上記の姿は、彼女の中では「当たり前」のことであり、相手を選ばず、いつも同じように相手に伝えようとしている姿だと分かり、大変感動しました。

きっと悩んでいる日もあるはずです。悔しい思いを抱いている日もあるはずです。それでも、彼女はあのときと同じように、その時の気分に関わりなく、相手を選ばず、いつも同じように相手に伝えている、そう思われるような、当たり前に行われた礼が、いつまでも自分の胸の中で光を放っています。

日常の一場面を切りとると、様々な力を発揮する生徒の姿を垣間見ることができます。とりわけ、この場面では、私たちが考える共生力を発揮した姿であると感じます。このように、生徒が何気なく示す一瞬一瞬の姿に目を向け、その値打ちを広げていきたいと思えます。

生徒たちは地域の笑顔を創り出す役割の一端を担っていると実感するとともに、この笑顔を創り出す生徒に負けない教育活動を一層実践していかなければと強く思いました。